

H2CUBEについて

多角的な視野、多様な価値観が多面体で表されている。さらに学び合う空間としての学校という場が立体で表されている。

生徒たちが、本校での様々な学びを確実に積み重ね、主権者として社会を生き抜いていく力強さが象徴されている。

※HOSEIの「H」、第二中・高等学校の「2」を組み合わせている。



Information (詳細は本校HPをご覧ください)

二中文化祭・二高祭

10月26日(土) 10月27日(日)

学校説明会 場所:法政二中高 木月ホール

中学校 ※HP上で予約する必要があります。

第1回 9月 7日(土) 10:00～(予定)

第2回 9月28日(土) 10:00～(予定)

第3回 10月19日(土) 14:30～(予定)

第4回 11月16日(土) 14:30～(予定)

高等学校 ※HP上で予約する必要があります。

第1回 9月28日(土) 14:30～(予定)

第2回 10月12日(土) 14:30～(予定)

第3回 11月 9日(土) 14:30～(予定)

第4回 11月30日(土) 14:30～(予定)

帰国生対象学校説明会 場所:法政二中高 木月ホール

中学校・高等学校 ※HP上で予約する必要があります。

8月24日(土) 10:00～(予定)

学校公開日

中学校・高等学校 ※HP上で予約する必要があります。

9月14日(土)

アクセスも抜群な武蔵小杉

- JR南武線
「武蔵小杉駅 西口」下車 徒歩12分
- JR横須賀線 (総武快速線・湘南新宿ライン・相鉄線直通)
「武蔵小杉駅 横須賀線口」下車 徒歩15分
- 東急東横線 (みなとみらい線・東京メトロ副都心線・東武東上線・西武池袋線・相鉄線 直通)
東急目黒線 (東京メトロ南北線・埼玉高速鉄道および都営三田線・相鉄線 直通)
「武蔵小杉駅 南口」下車 徒歩10分

※南武線・横須賀線・東横線・目黒線とも特急をはじめとした列車が武蔵小杉に停車します。



45 = 丸の数字は
武蔵小杉駅までにかかる時間の「分」を表す



出会い、向き合い、
「自分」をつくる。

— 10年後、なりたい自分になる。 —

法政大学第二中・高等学校

HOSEI UNIVERSITY DAINI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

SCHOOL GUIDE 2025



法政大学第二中・高等学校

〒211-0031 川崎市中原区木月大町6-1 TEL:044-711-4321(代)
<https://www.hosei2.ed.jp/>



付属校だからできる

「学び」と創造

あなたは、どんな自分になりますか

私たちの法政大学第二中・高等学校は、140年を超える歴史を持つ法政大学の付属校です。法政大学は、その長い歴史の中で「自由と進歩」という精神と「進取の気象」とを育んできました。法政大学憲章では「自由を生き抜く実践知」を社会との約束として掲げて、「地球社会の課題解決に貢献すること」を使命と記しています。法政二中高は、80年を超える歴史の中で培ってきた「お互いの尊厳を守る」という姿勢を大切にしています。また、法政大学の付属校であるという条件をいかして、さまざまな個性を持つ多くの人びとと出会い、互いに向き合いながら、自らの思考力を高め、そして実践しています。およそ2800名の生徒と教職員が集い学び合う場、このような法政二中高での学び、そして法政大学での学びを通して、どんな自分になりますか。地球社会のさまざまな課題の解決に向き合うために、どのような「知」を身につけますか。ともに考え、取り組んでいきましょう。



法政大学第二中・高等学校
学校長 五十嵐 聡

10年後、
なりたい自分になる

【教育目標】

- 01 人類および民族のあらゆる分野における歴史的・文化的遺産を体系的に学び取り、自然と社会・人間に対する認識を深める。
- 02 獲得した認識を総合し、自然との共生・諸民族の共同など、人類社会のもと諸課題と向き合う視野を培う。
- 03 学ぶことの意味と喜びを知り、常に学問的好奇心を発揮し、生涯にわたって成長を遂げることができる土台を獲得する。
- 04 自己を客観化し、社会の中でどのように生きるかを考えることにより、一人一人が個性を獲得し、自分の生き方を自分で決める能力をつける。
- 05 自ら諸課題の解決・現状の変革を担おうとする自主的精神と互いを尊重し共同での取り組みができる自治的な能力を獲得する。
- 06 高い品性と社会性を身につけ、不正・腐敗を許さず、社会正義を確立する自律の力を獲得する。



二中高ならではの学び

二中高だからこそできる学び

～平和で民主的な社会の担い手として～

出会い、向き合い、「自分」をつくる

80年以上の伝統

本校は「自由と進歩」を建学の精神とする法政大学の付属校です。「自由と進歩」とは人類の普遍的価値である「自由」と、現代社会の多様な問題を解決しようとする「進歩」のことを指します。本校はこの建学の精神を受け継ぎ80年以上の歴史と伝統を築くなかで様々な分野で活躍する4万名を超える有為な卒業生を輩出してきました。

新しい知、異なる他者、 未知の自分との出会い

生徒一人ひとりが新たな「学び」を追求するために、探求型学習を支える図書館をはじめとした、充実した施設・設備を備えております。また中学生約670名、高校生約1900名、合計約2600名の生徒が通う本校では、特別なクラス編成を行わないため、様々な個性、新しい見方・考え方に会うことができます。このような学校生活のなかで生徒が互いの違いを認め合いながら成長することで、新しい自分を見つけることができます。

学問・自分・他者と 真剣に向き合う

広い視野を持つためにも、すべての分野を幅広く学習し、基礎的な力を身につけることを大切にしています。日常のHRや授業では、多様な価値観をもつ仲間と討論や発表を重ねるなかで「健全な批判的精神」と「様々な諸課題の解決に向けて、仲間と共同する力」が育まれます。「自分は何をすべきか」「いかに生きるか」といった根源的な問いにも向き合うことは、将来の明確な目的意識を養うことにつながります。



「自分」をつくる

社会で生き抜く力を育てる

～未来を切り開く～

「なりたい自分」を自分でデザインする

興味・関心を掘り起こす

法政大学へは、学内成績と大学が求める外部試験において一定基準に達すれば、希望に基づき全ての生徒が推薦により進学することができます。大学受験を目的とする進路開拓ではなく「将来自分は何をやりたいのか」という視点でじっくりと進路を考えることができます。付属校であることを生かし、法政大学主催のイベント（ウェルカムフェスタ、ワンデーサイエンスカレッジなど）への参加、学部別講演会、卒業生の進路講演会など、自分の将来を具体的に考える機会も設けられています。

在校生のメッセージ

法政大学第二中・高等学校はどのような場所ですか？





中学校での学び

高校・大学への進学を見据えた高い学力の習得と
体験重視の多彩な教育プログラム

主体性・共同性・総合性を意識した学び

高い学力の習得に向けて
－週サイクルの学習姿勢を確立－

中高6力年の土台作りとなる中学1・2年次は30名以下の少人数学級とし、生徒一人ひとりに目を配った指導を展開しています。基礎学力はもちろん、高校でいける高い次元の学力を獲得することを目指します。特に積み重ねが重要な英語と数学においては、全学年で週あたり2～3時間の分割授業を実施したり、1週間の授業を振り返り、学習内容を定着させていく時間を設定したりしています。

体験重視の教育プログラム
－たくさんの体験が豊かな感性を育む－

中学生のうち、知識の習得だけではなく、「書く」「話し合う」「試す」など、様々な体験を通じて学んでほしいと考えています。こうした機会が主体的に学習する姿勢を育み、「学ぶこと＝楽しい」という実感を得ることにつながっています。

■ 図書館を舞台とする学び

資料の集め方、調べ方、まとめ方を身につけながら、問題を発見しその解決法を探る力や根拠に基づいて思考する力を育成しています。

■ 理科実験

理科実験は1クラスに教員2人というチームティーチングで実施。中学3年間を通じて、1週間に1回必ず実験を行い、考察をまとめます。

区分	テーマ	第1学年	第2学年	第3学年	教科合計
国語	自ら学ぶ力、言葉、表現を学ぶ	5	4	4	13
社会	自ら調べ、考え、表現する力を習得	3	4	4	11
数学	「数学が好き」という生徒を育てる	5	5	4	14
理科	実験・実習から自然の本質を知る	3	4	4	11
音楽	豊かな表現力を獲得する	2	1	1	4
美術	発想力と表現力、美術の楽しさを知る	2	1	1	4
保健体育	心技体のバランスを整える	3	3	4	10
技術・家庭	生活と関連づける	2	2	1	5
外国語(英語)	総合的な英語力の基礎を身につける	5	6	6	17
数学定着	1週間単位で授業の総まとめを行う	-	1	1	2
英語定着	1週間単位で授業の総まとめを行う	1	1	1	3
総合的な学習の時間	各教科の学びを総合化する	1※	※	1※	2
道徳		1	1	1	3
ホームルーム		1	1	1	3
総授業時数		34	34	34	102



カリキュラム (2025年度入学生に適用)

※「総合的な学習の時間」については、表中の時間数とは別に各学年とも週2時間分を集中的に実施します。

詳しくはこちらをご覧ください



高校での学び

「調べる・討論する・発表する」

知識をどう活用するかという視点で教科教育を展開

主体性・共同性・総合性を意識した学び

本校の教科教育は知識を獲得することにとどまらず、知識を用いて「自ら論理的に思考し、他者に表現することができる力」の育成を重視しています。現代社会においては答えが1つでない複雑な課題を、他者と協力しながら解決していく能力が不可欠となります。高校生の段階から「自ら問題意識を持ち、その解決に向けて、他者との話し合いを通し、多様な視点から認識を深め、総合的な視野に立ってまとめていく」という作業を体験することが大切です。そのため、レポート課題や班で1つのテーマについて話し合う時間が多い点が本校の教科教育の特徴です。

■全教科にわたる幅広い教養を身につける

大学受験にとらわれない本校は、受験科目だけを重点的に学習するのではなく、全教科にわたって基礎的教養を身につけることを大切にしています。これが各自の個性や特技を自覚することにつながり、進路の可能性を広げます。3年次から文系と理系に分かれます。

■選択授業

各教員が専門性をいかして講座を開く大学のゼミのような少人数の授業です。多種多様な講座の中から、生徒が自らの興味・関心や問題意識に応じて講座を選択し、より広く深く学習することができます。

教科	科目	1年	2年	3年		単位数計	
				文系	理系	文系	理系
国語	現代の国語	3				14	14
	言語文化	2					
	文学国語		2	3	3		
	古典探究		2	2	2		
地理歴史	地理総合	2				10	6
	歴史総合		2				
	日本史探究			4			
	世界史探究			2	2		
公民	公共	2				6	6
	倫理			2	2		
	政治・経済		2				
数学	数学Ⅰ	4				14	17
	数学Ⅱ		4				
	数学Ⅲ				3		
	数学A		2				
	数学B			4	2		
	数学C				2		
理科	科学と人間生活			2	2	11	14
	物理基礎		2				
	化学基礎		2				
	生物基礎	3					
	地学基礎	2					
	物理				3※1		
	化学						
保健体育	体育	3	3	3	3	11	11
	保健	1	1				
芸術	音楽Ⅰ	2※2				4	4
	美術Ⅰ						
	音楽Ⅱ		2※2				
外国語	英語コミュニケーションⅠ	6				18	18
	英語コミュニケーションⅡ		6				
	英語コミュニケーションⅢ			6	6		
家庭	家庭基礎		2			2	2
情報	情報Ⅰ	2				2	2
選択	必修選択			4	2	4	2
総合的な探究の時間		1	1	1	1	3	3
ホームルーム		1	1	1	1	3	3
単位数計		34	34	34	34	102	102

カリキュラム (2025年度入学生に適用)

※1 3年理系クラスの理科は、物理・化学・生物・地学から1科目選択
 ※2 1・2年の芸術は、音楽Ⅰ・Ⅱまたは美術Ⅰ・Ⅱから選択(Ⅰ・Ⅱは同一の科目となります)

詳しくはこちらをご覧ください 



国際交流

国際交流を通して、
自分と異なる他者と認め合い、
協調していく大切さを学びます

他者との出会いを意識した 国際交流

国際交流委員会

国際交流委員会では、世界各地から受け入れている短期留学生や年間留学生の歓迎行事やサポート、オンラインによる海外の中高生との交流、留学から帰国した生徒の報告会、途上国の学校への支援活動、そして文化祭を含めた様々な楽しいイベントを生徒の手でおこなっています。活動の拠点となる国際交流室には、異文化交流や留学に興味のある中学生や高校生、留学生、本校の外国人講師などが、毎日のように集っています。

留学制度

ニュージーランドの姉妹校であるオレワカレッジへは年間留学制度（費用一部補助、選抜試験実施）のほか、3ヵ月のターム留学の制度や短期の研修を実施しています（いずれも希望制）。一定の条件を満たせば、法政大学への被推薦権を保持したまま留年せずに年間留学ができる制度もあり、多くの生徒が諸留学機関の年間プログラムなどを利用してアジア、オセアニア、ヨーロッパ、南北アメリカの世界各国に留学しています。



ニュージーランド研修

詳しくはこちらをご覧ください





学校生活について

話し合いを重視した組織作り

多様な個性を認め合うことから

始まる友人関係

学校生活

生徒が主役

生徒会は全校生徒で構成された生徒の自主的な組織です。学校は生徒一人ひとりの教育要求の実現の場でもあり、クラス、班、クラブなどにおける一人ひとりの積極的な意見、活発な討論によって豊かなものへと発展していきます。本校は学校生活を生徒が協力し創りあげる、「生徒が主役」の学校です。様々な活動に取り組む中で、それらの活動の質を高め深化させるとともに、民主的組織運営の手法を学びとり、主体性や共同性を育てていきます。



中1 校外授業と高1 新入生合宿

「集団での話し合い」を大切にする本校は、その基礎作りに積極的に取り組みます。中学の「校外授業」では「基本的生活習慣の確立」「社会性の習得」「豊かな人間関係の形成とクラス集団・学年集団づくり」「学習集団としてのクラス集団の確立」を主なテーマとし、講義はもちろん班活動やスポーツ大会などを実施します。高校の「新入生合宿」では「高校生としての基本姿勢の定着」「良いクラスづくり」「学習と自主活動の両立」を主なテーマとし、生徒同士の討論、作文、スポーツ活動などの取り組みを行います。

中3 研修旅行と高2 修学旅行

中学3年生の「広島山陰研修旅行」は、総合の授業の一環として実施されています。平和や自然環境など広島に関する様々な分野の中から班ごとのテーマを設定し、調査・研究した成果を発表します。高校2年生の「沖縄修学旅行」では、平和学習を主軸に自分たちが今生活している社会に存在する課題に向き合い、現地での体験や事前・事後学習を通して「平和から自己を見つめ直す」取り組みに重点をおいています。「話し合いを大切にした組織作り」の集大成としてクラスの結束力や集団力を高め、生徒たちは互いの理解を深めていきます。



詳しくはこちらをご覧ください





自主活動

多様な部活動により、
心身の更なる成長を目指します

生徒会

旺盛な生徒会活動

生徒会では、豊かな学校生活に資する「学力」「体力」「品性」「生活の向上」「文化・スポーツ要求の実現」を主な目標として掲げ、生徒一人ひとりが主体的に様々な活動を行っています。特に部活動は生徒会の中に組織され、「民主的なクラブ運営」を大きな柱として、生徒の自主・自律の精神を育みます。中高ともに入部は任意ですが、多くの生徒がいずれかの部活に所属し、活発に活動しています。



体育部 (30クラブ)		募集種別 (入部可能は●)			
部活名	高男	高女	中男	中女	
アメリカンフットボール部	●				
空手部	●	●	●	●	
グランドホッケー部	●				
剣道部	●	●	●	●	
硬式野球部	●				
ゴルフ部	●	●			
サッカー部	●				
自転車競技部	●	●			
柔道部	●	●	●	●	
重量挙げ部	●	●	●	●	
水泳部 ※1	●	▲	▲	▲	
スキー競技部	●	●	●	●	
ソフトテニス部	●	●			
体操部	●		●		
卓球部	●		●		
テニス部	●	●	●	●	
登山部	●	●			
軟式野球部 ※2	●	△			
男子バスケットボール部	●		●		
バドミントン部	●	●			
男子バレーボール部	●		●		
ハンドボール部	●		●		
フェンシング部	●	●	●	●	
ラグビー部	●		●		
陸上競技部	●	●	●	●	
女子バスケットボール部		●		●	
女子バレーボール部		●		●	
チアリーディング部		●		●	
中学サッカー部				●	
中学野球部				●	

文化部 (21クラブ)		募集種別 (入部可能は●)			
部活名	高男	高女	中男	中女	
映画研究部	●	●			
英語部	●	●			
演劇部	●	●			
音楽部	●	●			
化学部	●	●			
カメラ部	●	●	●	●	
社会科学歴史研究部	●	●	●	●	
囲碁将棋部	●	●	●	●	
吹奏楽部	●	●	●	●	
数学研究部	●	●			
生物部	●	●			
地学部	●	●			
鉄道研究部	●	●			
文芸日本古典研究部	●	●			
美術部	●	●	●	●	
物理部	●	●			
放送部	●	●	●	●	
合唱部	●	●	●	●	
家庭科部	●	●	●	●	
茶華道部	●	●	●	●	
中学科学部			●	●	

クラブ数、募集種別ともに2024年度のもので、2025年度以降については変更の可能性もあります。
 ※1 水泳部の▲については個人的にスイミングスクールに所属していることが入部条件となります。(活動環境の保障のため)
 ※2 軟式野球部の△は入部は可能ですが、試合には出られません。
 ※3 本校の部員として大会・コンテスト等に参加できるクラブは、記載されているクラブのみとなります。
 中高・男女の募集種別をご確認ください。

詳しくはこちらをご覧ください 



生徒が創る学校行事

共同・協力する学びの集大成

たくさんの行事を通じて、豊かな人格を育みます

多彩な学校行事

体育祭

中高ともに生徒会を中心として生徒たちが協力して創りあげます。中学では団・クラス・委員会・部活動など、様々な集団が協力しながら準備・運営をする中で、生徒会活動が「どのようなものか」を学んでいきます。高校では毎年、スローガン、競技種目決定の段階から生徒が話し合い、当日の運営・表彰に至るまで、全てを生徒自身が行います。

二中文化祭・二高祭

本校の文化祭は各企画団体が決定した文化テーマをもとに、日頃の活動成果を学内外に発信する場となっています。劇、歌、ダンスなど表現する企画が多いことも特徴です。企画作りは、企画代表者がリーダーシップを発揮して意見をまとめ、入念に時間をかけて協力しながら創りあげます。中高同時に開催しており、クラスの発表以外にも文化部の発表、体育部の公開練習、外部団体による出店などがあります。



詳しくはこちらをご覧ください



法政大学

「自由と進歩」の伝統の下、

“世界のどこでも生き抜く力”を育む

有資格者全入制度

有資格者全入制度とは、法政大学への進学を希望する生徒で、日常の成績が一定基準に達し、法政大学の指定する英語の外部試験（TOEIC Bridge® 等）および法政大学の付属生を対象とした「基礎的思考力確認テスト」で一定の成績を修めた者は、希望に基づき全員法政大学のいずれかの学部・学科に推薦されるという制度です。

法政大学推薦実績 2023年度 卒業生

● 法政大学推薦実績（学部別）			
学部名	学部計	学部名	学部計
法学部	72	スポーツ健康学部	17
文学部	62	情報科学部	12
経済学部	76	デザイン工学部	25
社会学部	66	理工学部	38
経営学部	67	生命科学部	6
国際文化学部	23	グローバル教養学部	6
人間環境学部	31		
現代福祉学部	17	法政大学推薦 推薦者計	545
キャリアデザイン学部	27	卒業生総数	615

卒業生のメッセージ

求める者には与えられる場所

法政二高は、多くの分野において、求める者には与えられる場所です。私は高校3年間、学級委員長を務める中で、まずそれを感じました。法政二高の行事は生徒の主体性が求められ、学級委員はクラスの意味をまとめ、形にするアシストをします。面倒だと一蹴することもできますが、丁寧に仕事に向き合った上で行事を迎えることでクラスのみならず味わう達成感は何にも代えがたいものがありました。また、勉学の面においても、献身的に指導をくださる先生がおり、疑問点の解消や、関心を深めるにあたり書籍の紹介をしてくださったことがありました。自身の向き合い方次第で、多くの出会いと経験を得られる可能性に満ちた場所に巡り合えたことに感謝しています。



加藤 ひなた
2022年度卒業
法学部国際政治学科

多種多様な経験と進路

私は法政二中高で6年間、ラグビー部に所属し、同時に委員会活動や学級活動にも熱心に参加してきました。これらの活動が時折重なることもありましたが、先生方のサポートのおかげで両活動を疎かにせず様々な経験を積むことができました。他の生徒たちも同様に両立をしながら学生生活を送っているため、理解が行き届いている雰囲気の中でお互いに助け合いながら過ごすことができます。進路においては、法政大学には多岐にわたる学部があるため、文系理系問わず幅広い選択肢があります。法政二中高ではこうした多種多様な経験と進路選択を可能にしてくれる制度、環境が整っており、「自分らしい個性を磨くことができる学校」だなと感じています。



川口 一典
2022年度卒業
デザイン工学部都市環境デザイン工学科



写真左から・田鍋 絵麻（キャリアデザイン学部キャリアデザイン学科）・目野 眞多（理工学部機械工学科航空操縦学専修）
・村井 太郎（経営学部経営戦略学科）・加藤 ひなた（法学部国際政治学科）・田中 望恵（社会学部メディア社会学科）
・川口 一典（デザイン工学部都市環境デザイン工学科） ※2022年度法政二高卒（6名とも）

施設紹介

様々な学習や自主活動を支える

教育環境

キャンパスは、本校の伝統や特徴を最大限にいかし、未来に向かって発展できる場所として設計されています。付属校ならではの「学び」を追求できる環境であり、様々な自主活動を活発に展開することができるキャンパスとなっています。

詳しくはこちらをご覧ください



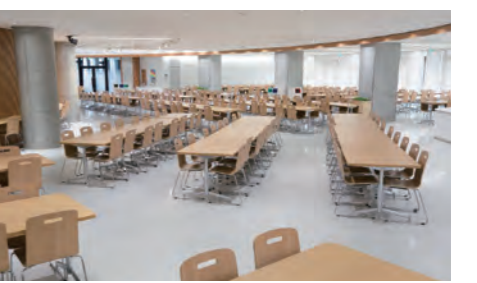
木月ホール



図書館



学習ラウンジ



食堂



陸上競技場



総合体育棟アリーナ



グラウンド



サッカー場

時計塔本館

住吉門

小杉門

守衛棟

木月総合文化棟

グラウンド

テニスコート

サッカー場

ハンドボールコート

大野球場

総合体育棟 (北棟)

総合体育棟 (東棟)

総合体育棟 (南棟)

小野球場

ホッケー場

陸上競技場

グラウンド門